

自分の命を 自分で守る ために

令和7年度版



子吉川水系石沢川



最上川水系最上川



子吉川水系石沢川

自分の命を自分で守るために

- ① 近年の被災事例 1
洪水・土砂災害で犠牲になった事例
洪水・土砂災害から逃れられた事例
- ② 避難するときに注意! 2
一般的に注意すること
大雨に備えての避難のポイント
土砂災害に備えての避難のポイント
- ③ 災害に備える 4
洪水・土砂災害から身を守るために知っておきたいこと

- ④ 地震に備える 6
緊急地震速報を見聞きしたときにとるべき行動は?

- 令和6年度の災害を振り返る 7
令和6年7月25日からの大雨
令和6年台風第10号
令和6年9月20日からの大雨
宮崎県日向灘を震源とする地震による被害
桜島の火山活動

みなさんに伝えたい、知ってほしい 防災情報 15

洪水・土砂災害で犠牲になった事例

災害名	被災原因	概要
令和3年8月豪雨 (2021/8/13)	・洪水 ・道路流失 ・車移動	広島市安佐北区安佐町飯室では、8月13日午前と同地区内を流れる鈴張川で車が流され、14日にこの場所から30km前後離れた同県廿日市市宮島町沖の瀬戸内海で60代女性が遺体で発見された。災害直後の報道映像では、現場付近では鈴張川右岸に河道と直面して並行する道路が長さ約20mに渡り流失しており、この箇所に転落した可能性が高いと推定される。
令和3年8月豪雨 (2021/8/13)	・洪水 ・見回り ・夜間	熊本県人吉市七地町の球磨川では、所有する舟の様子を見に行ったら同市に隣接する錦町内在住の76歳男性が行方不明となり、8月18日に下流の八代市で発見された。遭難場所はだまかにしか推定できないが、川に接近していたことは確実であり、原因外力は「河川」と分類した。遭難時刻も不詳だが、13日夕方から夜にかけての可能性はある。
令和3年8月豪雨 (2021/8/14)	・洪水 ・見回り	広島県東広島市では、8月14日昼前に田んぼの水を見に行くと自宅から出た同市志和町奥屋在住の83歳男性が行方不明となり、18日に下流の広島市内の元安川河口付近で遺体で発見された。遭難場所は推定できないが、居住地付近では目立った洪水の被害は確認できず、東広島市全体での家屋被害も床上浸水2棟であることも考えると、河川に接近・転落して死亡した可能性が高いと推定される。
令和4年7月14日 からの大雨 (2022/7/19)	・洪水 ・アンダーパス	近江八幡市安土町では、70代女性が徒歩移動中に洪水に巻き込まれ死亡した。現場は、JR線を横断方向に潜る歩道専用のアンダーパスで4方向から入り口があり、犠牲者は線路横断方向と直行する方向の入り口から進入したとみられている。現地で計測したところ、アンダーパス部分は高さ約2.7mで、現地に示された掲示物によるとピーク時には完全に水没していた。
令和4年8月3日 からの大雨 (2022/8/3)	・洪水 ・見回り	岩手県では、一戸町宇別の70代男性が3日18時頃に自宅近くの農業用ハウスの様子を見に行ったら、行方不明となった。農業用ハウスのすぐそばを流れる宇別川が増水し、川に流されたとみられる。男性は川の下流にある大志田ダムで遺体として発見された。
令和4年8月3日 からの大雨 (2022/8/3)	・洪水 ・道路橋流失 ・夕方夜間移動 ・車移動	山形県では、飯豊町小白川で県道の橋が洪水の影響により崩落し、車ごと流されたとみられる80代男性が行方不明となった。3日17時頃に男性の実家が浸水し始めていたことから土嚢を届けようと車で移動中に遭難したとみられる。遭難場所は、河川の直上で地形的には低地である。遭難場所付近に堤防はなく、緩い下り坂の先に橋があるという道路断面だった。橋梁流失に車が巻き込まれ犠牲者が出たケースと思われる。
令和4年台風11号 及び前線に伴う大雨 (2022/9/2)	・洪水 ・見回り	奈良県で発生した犠牲者事例は、9月2日に同県桜井市で70代女性が田んぼの様子を見に行き、用水路に転落したものである。
令和4年台風14号 (2022/9/18)	・洪水 ・夕方夜間移動 ・車移動	19日朝、宮崎県都城市高城町では水没した乗用車内で60代男性が死亡して発見された。18日17時頃に自宅を出て以降、行方が分からなくなっており、発見時には乗用車の高さ程度まで浸水していたとのことである。発見場所は水田だが脇に道路があり、通行中に流されたかと推察される。
令和4年台風15号 (2022/9/24)	・土砂 ・裏山斜面崩壊 ・2階建1階倒壊	掛川市遊家では24日0時55分頃、住宅が倒壊したとの119番通報があったとのことである。現場は同一敷地内に複数の建物があり、建物の裏山斜面が崩壊し、2階建ての離れの1階部分が倒壊していた。この建物内で40代男性が亡くなった。普段からこの建物の2階で寝泊まりしており、被災当時は外で物音がしたので様子を見に下りたところ巻き込まれた模様である。

洪水・土砂災害から逃れられた事例

災害名	成功要因	概要
平成29年 九州北部豪雨	・自分たちの避難 判断の目安 ・早期自主避難	朝倉市平榎地区(37世帯92人)では、複数の住宅が流されたり床上まで浸水したりして大きな被害が出たが、住民は全員無事であった。その背景に、住民たちが自主避難を判断する目安を作っていたことがある。この地区は、5年前の「平成24年九州北部豪雨」で、小さな川のそばにある住宅が床上まで水につかる被害が出た。それ以来、住民たちは、この住宅の状況を避難のための目安にしていたのである。住民同士すぐに声をかけ合って高い場所にある住宅に避難を始めた。すると、その約1時間後に濁流が地区を襲った。この目安が、早期の自主避難、人的被害ゼロにつながった。
令和5年6月29日 からの大雨	・水害危険性の認識 ・避難確保計画 ・避難訓練 ・垂直避難	令和5年7月10日の大雨により、福岡県久留米市にある田主丸中央病院では、明け方から病院内に水が流れ込み、1階部分が30cm程浸水したが、1階入居者約50人を2階に垂直避難させ、人的被害はなかった。施設ではハザードマップを通して、河川氾濫など水害の危険性を認識していた。水防法に基づく避難確保計画を作成しており、毎年避難訓練を実施するなど災害に対する備えの意識が高かった。

2

避難するときに注意！



地震、津波、洪水、土砂災害、そして火災などの危険が迫った時、あなたならどうしますか？危険が迫った時の避難行動は、あなただけでなく、あなたの家族や近所の方々を救う大切な手段です。これから、災害が起こった時の避難のポイントを見ていきましょう。

避難の一般的な注意点としては、次のような点が挙げられます。

一般的に注意すること

● 早めの避難



私たち人間は、危険が迫るぎりぎりまで自分は大丈夫だという気持ちを持ちがちです。その結果が「逃げ遅れ」につながります。「空振りでもいい」という気持ちで、早めに避難することが大切です。

● 正しい情報による避難



避難の際、情報は大変重要なものです。多様な手段から正しい情報を入手して、落ち着いて避難しましょう。

● 徒歩による避難



車での避難には、水に流されたり、浸水した車から脱出できなかったりといったさまざまな危険が潜んでいます。原則として徒歩で避難しましょう。

● 避難の際の隣近所に声掛け



自分が危険を察知しても、隣近所の方が気づいていないことも考えられます。避難の際は、大きな声で避難を呼び掛けましょう。その際、お年寄りや身体の不自由な人など自力で避難することが難しい人がいたら、可能な限り避難の手助けをしましょう。

● 普段から避難場所・避難経路を知っておくこと



避難しなければならない状況に、いつ遭遇するかわかりません。その時になって慌てないように、普段から避難場所や避難経路を家族で確認しておきましょう。

大雨に備えての避難のポイント



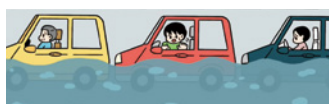
原則は、浸水する前に避難することです。浸水してから避難はさまざまな危険があります。自治体などからの情報に注意して早めの避難を心がけてください。特に、自治体から避難指示が出された場合はためらわずに避難しましょう。自治体からの情報がない場合でも、住んでいる場所の条件などによって危険となる場合がありますので、危険を感じたらすぐに避難します。特に子どもやお年寄り、体の不自由な人がいる場合は早めに避難しておきます。



避難するときは、紐で締められるなど、脱げにくく歩きやすいものを履いて外へ出ます。



氾濫した水の流れは勢いが強いので、水深が膝程度あると大人でも歩くのが困難になります。緊急安全確保として、高い堅牢な建物にとどまることも選択の一つです。氾濫した水は、茶色く濁っており、水路と道路の境や、ふたが空いているマンホールの穴は見えません。他のルートでの避難や自宅などの浸水しない場所に留まることを検討しましょう。



ところで、避難というと、「車で逃げる」ことを思い浮かべる人も多いかもしれません。しかし、車での避難には移動中に洪水等に見舞われることや、渋滞を発生させるおそれがあることを覚えておいてください。

2

避難するときに注意！

土砂災害に備えての避難のポイント

土砂災害の危険箇所付近にお住まいの方にとって、天気予報で、土砂災害の危険が迫っていると注意の呼びかけを聞いたときは大事なタイミングです。何の異常を感じなくても、「念のため避難しておく」この心構えが命を救います。

一般的な土砂災害の前兆現象に注意しましょう。ただし、いつも前兆現象があるとは限りません。

前兆現象を知った段階では、すでに危機が目の前に迫っています。土砂災害は瞬時に起きます。少しでも普段と変わった現象を発見したら、無駄になろうとも素早い避難が必要です。

なお、この段階での避難では間に合わない可能性があることも理解しておいてください。

▲ 土石流

特徴

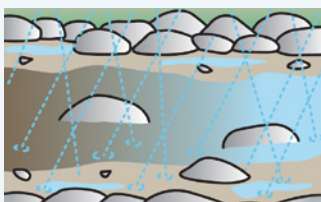
山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうことも。



主な前兆



①川の流れがにごり、流木が混じりはじめる



②雨は降り続けているのに川の水位が下がる



③山鳴りがする

▲ 地すべり

特徴

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。土塊の移動量が大きいいため甚大な被害が発生。



主な前兆



①沢や井戸の水がにごる



②地割れができる



③斜面から水が噴き出す

▲ がけ崩れ

特徴

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。



主な前兆



①がけから小石がパラパラと落ちてくる



②がけから水が湧き出ている



③がけに割れ目が見える

3

災害に備える

洪水・土砂災害から身を守るために知っておきたいこと

洪水・土砂災害に備えて！ ①お住まいの場所が、危険な場所か確認しましょう

- 洪水のおそれがある地区は「洪水浸水想定区域」、土砂災害のおそれがある地区は「土砂災害警戒区域」とされています。普段から自分の家がこれらの洪水・土砂災害のおそれがある地区にあるかどうか、国土交通省の「[ハザードマップポータルサイト](#)」などで確認しましょう。
- また、避難の際にどこにどのように逃げるのか知っておくことが大事です。避難場所や避難経路を確認しましょう。

※洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域等は危険な地域を表示するものであり、表示がない地域を安全な地域として表示しているものではありません。



水害リスク①	浸水の目安が5m以上 (2階屋根以上浸水) または家屋倒壊等氾濫想定区域内	広域避難 (他の浸水しない地区に)
水害リスク②	浸水の目安が3m~5m(2階浸水) または家屋倒壊等氾濫想定区域内	水平避難 (指定緊急避難場所に)
水害リスク③	浸水の目安が0.5m~3m未満 (1階床上浸水) または0.5m未満(1階床下浸水)	垂直避難 (家の2階以上に)
水害リスク④	浸水想定区域外	不要・不急の 外出は避ける

洪水・土砂災害に備えて！ ②いざという時のとるべき行動を決めておきましょう

- 台風の接近時などに、「いつ」「何をするのか」を住民一人ひとりに合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画である「マイ・タイムライン」とスマートフォンアプリの防災情報のプッシュ通知機能などデジタル技術を融合しました。
- 地域のワークショップによる平時におけるマイ・タイムラインの検討の過程で、自宅の浸水リスクや逃げるタイミング等をスマートフォンに登録しておき、水害などの危険が迫った際には、自らが決めた避難のトリガー情報のプッシュ通知により、確実な避難行動を後押しします。
- 今が、マイ・タイムラインのどの段階か一目で確認ができます。
- 支援が必要な方のマイ・タイムラインを共有することもできます。



雨が降り始めたら！ ③お住まいの場所の危険度を確認しましょう(避難のタイミング)

高 危 険 度 低	色が持つ意味	相当する警戒レベル	とるべき行動		
			土砂災害	大雨警報(浸水害)	洪水
	災害切迫	5	命の危険、直ちに身の安全を確保！		
	警戒レベル4までに必ず避難！				
	危険	4	土砂災害警戒区域等の外に避難する	各自の判断で、屋内の浸水が及ばない階に移動	一定の水位を超えている場合には安全な場所に避難する
	警戒	3	高齢者等の方は土砂災害警戒区域等の外に避難する 高齢者等以外の方は普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする	安全確保行動をとる準備	高齢者等の方は一定の水位を超えている場合には安全な場所に避難する 高齢者等以外の方は普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする
注意	2	土砂災害警戒区域等や避難先、避難経路を確認する	各自の判断で、住宅の地下室からは地上に移動し、道路のアンダーパスには近づかないようにする	避難行動を確認する	
今後の情報等に留意	1	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意			

高
危険度
低

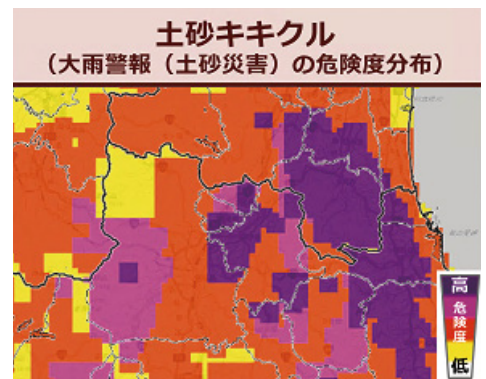
資料：国土交通省HP

資料：「家や地域のリスク(風水害編)」(総務省消防庁動画チャンネル) <https://www.youtube.com/watch?v=YxSWmhyiHzw>



土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)

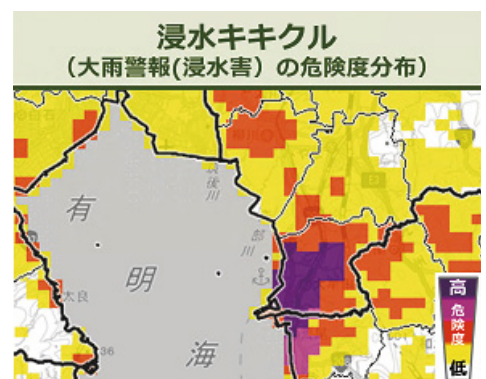
- 大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを地図上で5段階に色分けして示す情報です。
- 10分毎に更新しており、土砂警戒情報や大雨警報(土砂災害)等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。
- 土砂災害発生の危険度が高まっている地域にお住まいの方は、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に、早めの避難を心がけてください。



浸水キキクル(大雨警報(浸水害)の危険度分布)

- 短時間強雨による浸水害発生の危険度の高まりの予測を示しており、大雨警報(浸水害)等が発表されたときに、どこで危険度が高まるかを面的に確認することができます。
- 1時間先までの表面雨量指数の予測値が大雨警報(浸水害)等の基準値に到達したかどうかで、危険度を5段階に判定し、色分けしています。

※表面雨量指数：地面の被覆状況や地質、地形勾配などを考慮して、降った雨が地表面にどれだけ溜まっているかを数値化したもので、短時間強雨による浸水危険度の高まりを把握するための指標です。



洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)と水害リスクライン(国管理河川の洪水の危険度分布)

- 洪水キキクルは中小河川の洪水危険度を伝え、水害リスクラインは大河川のきめ細かな越水・溢水の危険度をお知らせするものです。洪水キキクルのサイトで一体的に表示しています。
- 洪水キキクルは、大雨による中小河川(水位周知河川及びその他河川)の洪水災害発生の危険度の高まりを5段階に色分けして地図上に示したものです。危険度の判定には3時間先までの流域雨量指数の予測値を用いており、中小河川の特徴である急激な増水による危険度の高まりを事前に確認することができます。
- 水害リスクラインは大雨による大河川(国管理河川)のおよそ200mごとに推定した水位と堤防等の高さを比較し、越水・溢水の危険度を5段階に色分けして地図上に示したものです。

※流域雨量指数：全国の約20,000河川を対象に、河川流域を1km四方のメッシュに分けて、降った雨水が、地表面や地中を通して時間をかけて河川に流れ出し、さらに河川に沿って流れ下る量を数値化したもので、河川の上流域に降った雨により、どれだけ下流の対象地点の洪水危険度が高まるかを把握するための指標です。



豪雨になる前に! ④高齢者等はレベル3で避難を、その他の方もレベル4で避難をしましょう

- お住まいの地域に警戒レベル4相当情報(土砂災害警戒情報、キキクル「危険」(紫)、氾濫危険情報など)が発表されたら、自治体からの警戒レベル4避難指示の発令に留意し、地域内の方々に声をかけあい近くの避難場所など、安全な場所に避難しましょう。特に、お年寄りや障害のある人など避難に時間がかかる人や、夜中に大雨が想定される場合は、警戒レベル3相当情報(大雨警報(土砂災害)、洪水警報、キキクル「警戒」(赤)、氾濫警戒情報など)高齢者等避難が発令されたタイミング等で早めに避難することがより安全です。
- 洪水・土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。浸水などで避難場所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上や、家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に移動しましょう。

4

地震に備える

緊急地震速報を見聞きしたときにとるべき行動は？



いつ、どこで起こるか分からない地震。その発生をできるだけ早く伝え、身を守る行動がとれるように、気象庁では、地震による強い揺れが来るときには「緊急地震速報」等を発表しています。これらの情報を見聞きしたときは、素早い判断で身を守る行動をとることが大切です。

家庭で屋内にいるとき

- 家具の移動や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる
- 慌てて外に飛び出さない
- 料理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない
- 扉を開けて避難路を確保する



人が大勢いる施設(大規模店舗などの集客施設)にいるとき

- 慌てずに施設の係員や従業員などの指示に従う
- 従業員などから指示がない場合は、その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる
- 吊り下がっている照明などの下から退避する
- 慌てて出口や階段に殺到しない



エレベーターに乗っているとき

- 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる



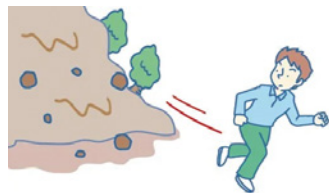
屋外にいるとき

- ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる
- ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる



山やがけ付近にいるとき

- 落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる



鉄道・バスに乗っているとき

- つり革や手すりにしっかりつかまる



自動車運転中

- 後続の運転手が緊急地震速報を聞いているとは限らないため、自動車運転中は、慌てて急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす
- ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する

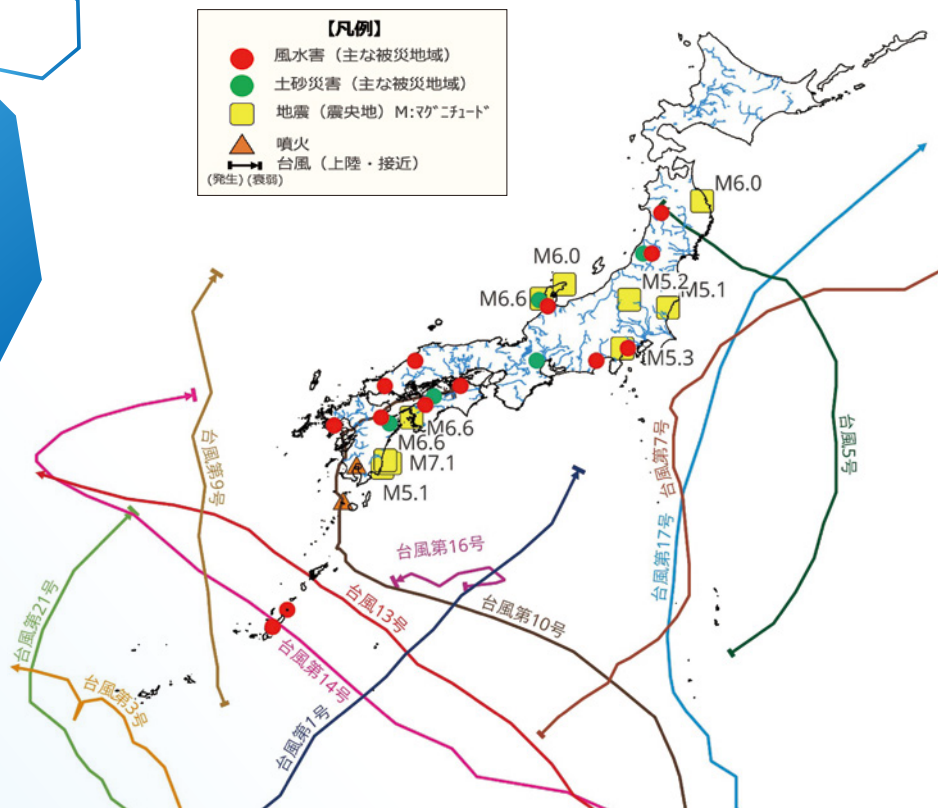


令和 6年度

の災害を振り返る

2024年度の災害は、台風5号や台風10号に伴う大雨、7月に秋田県や山形県を中心に被害をもたらした記録的な大雨、そして、令和6年能登半島地震の被災地を襲い、複合災害を引き起こした9月の記録的な大雨、11月に入っても奄美地方と沖縄本島地方では記録的大雨となるなど、全国各地で甚大な被害が発生した。

8月8日の日向灘の地震では、宮崎県で最大震度6弱を観測し、南海トラフ地震臨時情報が運用開始以来初めて発表された。



滋賀県米原市 令和6年7月



塚田川(石川県輪島市) 令和6年9月

主な災害

風水害(床上浸水10棟以上)

(主な被災地域)

2024年 6月	6月17日から大雨	静岡県
7月	7月10日から大雨	島根県、山口県
	7月25日から大雨	秋田県、山形県
8月	台風第10号	神奈川県、静岡県、香川県、大分県
9月	9月20日から大雨	石川県、長崎県
11月	11月1日から大雨	静岡県、愛媛県
	11月9日から大雨	鹿児島県、沖縄県

(消防庁情報)

土砂災害(人家被害が5戸以上)

(主な被災地域)

2024年 7月	7月10日から大雨	愛媛県
7月	7月25日から大雨	山形県、滋賀県
	台風第10号	大分県
9月	9月20日から大雨	石川県

(国土交通省情報)

火山噴火(噴火警戒レベル3以上)

(主な被災地域)

昨年度から 継続	桜島(レベル3)	鹿児島県鹿児島市
2024年 4~10月	口永良部島(レベル3)	鹿児島県屋久島町

(気象庁情報)

地震(震度5弱以上)

(震源地)

(主な被災地域)

2024年 4月	岩手県沿岸北部(M6.0)	【震度5弱】青森県八戸市、三沢市、野辺地町、五戸町、岩手県宮古市、久慈市、普代村、野田村、軽米町
	大隅半島東方沖(M5.1)	【震度5弱】宮崎県日南市
6月	石川県能登地方(M6.0)	【震度5強】石川県輪島市、珠洲市 【震度5弱】石川県能登町
	日向灘(M7.1)	【震度6弱】宮崎県日南市 【震度5強】宮崎県宮崎市、日南市、串間市、都城市、鹿児島県大崎町 【震度5弱】宮崎県高鍋町、新富町、宮崎市、日南市、串間市、国富町、都城市、小林市、三股町、高原町、鹿児島県鹿児島市、霧島市、始良市、鹿屋市、垂水市、東串良町、曾於市、肝属町
11月	神奈川県西部(M5.3)	【震度5弱】神奈川県厚木市、中井町、松田町、清川村
	茨城県北部(M5.1)	【震度5弱】茨城県日立市
2025年 1月	石川県西方沖(M6.6)	【震度5弱】石川県輪島市、志賀町
	日向灘(M6.6)	【震度5弱】宮崎県高鍋町、新富町、宮崎市
2025年 1月	福島県会津(M5.2)	【震度5弱】福島県檜枝岐村

(気象庁情報)



浸水被害

令和6年7月25日からの大雨

7月23日頃から北日本に停滞した梅雨前線の影響で、東北地方の日本海側を中心に北日本から西日本では大雨となり、山形県では25日の昼過ぎと夜に線状降水帯が発生して大雨特別警報を2度発表した。

また、東北地方を中心に、24日から26日にかけての3日間の降水量が400ミリを超えた地点や平年の7月の月降水量を超えた地点があり、記録的な大雨となった。

河川の被害は、国管理河川で子吉川および最上川の2水系4河川で氾濫が確認された。県管理河川では、11水系35河川で氾濫が確認された。

ダムは2ダムで事前放流を実施し32ダムで洪水調節を実施。1ダムで緊急放流（非常用洪水吐きからの越流）に移行。1ダムで特別防災操作（通常の洪水調節よりも大幅に流量を抑制する操作）を実施。

山形県管理の4ダムにて貯水池流木止め施設破損等を確認。

浸水被害

国管理河川、県管理河川あわせて39河川で、東北地方を中心に1,486棟（R6.11.21時点）の床上・床下浸水被害が発生した。



米代川水系五反沢川

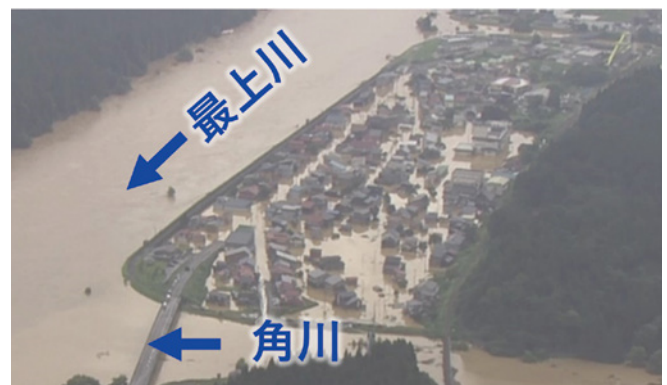
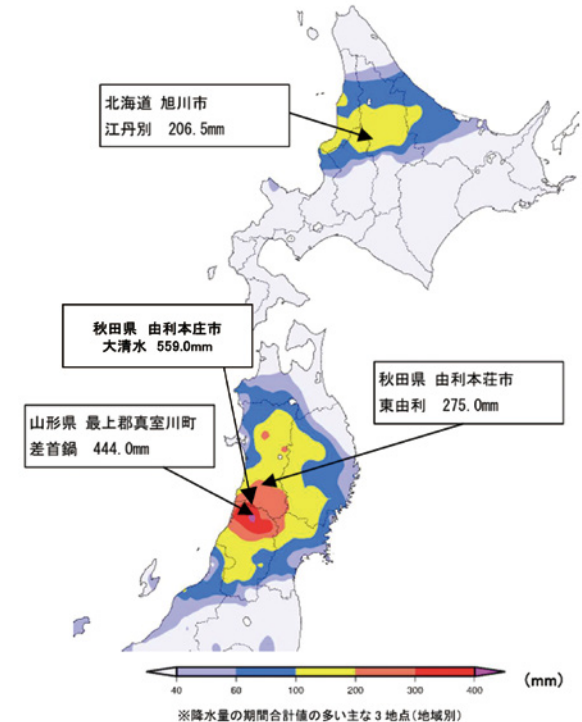


子吉川水系石沢川

被害状況（消防庁情報第23報R6.11.21）

人的被害	死者	5人	秋田県2、山形県3
	行方不明者	0人	—
	重傷者	0人	—
住家被害	全壊	25棟	秋田県3、山形県20、滋賀県2
	半壊	578棟	秋田県54、山形県523、滋賀県1
	床上浸水	87棟	秋田県13、山形県74

主な地点の降水量（7月23日～26日）



最上川水系最上川



最上川水系最上川



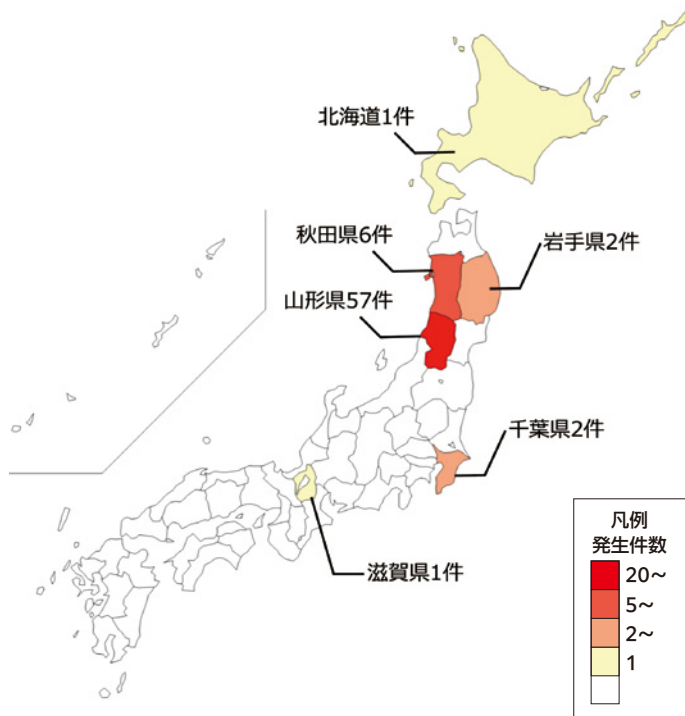
土砂災害

令和6年7月25日からの大雨

●土砂災害(国土交通省情報)

発生件数	土石流等	6件	
	地すべり	9件	
	がけ崩れ	54件	
被害状況	人的被害	死者	—
		負傷者	1名
	家屋被害	全壊	10戸
		半壊	14戸
		一部損壊	9戸

この大雨の影響で、山形県をはじめ、69件の土砂災害が発生した。



7/26 がけ崩れ 山形県最上郡最上町瀬見



7/26 がけ崩れ 秋田県北秋田市阿仁水無



7/26 がけ崩れ 山形県最上郡舟形町舟形



7/26 土石流等 山形県酒田市北青沢



7/26 がけ崩れ 山形県最上郡鮭川村川口



7/25 土石流等 滋賀県米原市伊吹



浸水被害

令和6年台風第10号

●被害状況(消防庁情報第21報R6.11.21)

人的被害	死者	8人	愛知県3、徳島県1、福岡県2、佐賀県1、鹿児島県1
	行方不明者	0人	—
	重傷者	11人	愛知県1、福岡県3、佐賀県1、長崎県1、宮崎県1、鹿児島県4
住家被害	全壊	12棟	神奈川県3、静岡県1、愛知県1、福岡県2、大分県2、鹿児島県3
	半壊	135棟	神奈川県42、岐阜県8、静岡県19、大分県17、宮崎県22、鹿児島県27
	床上浸水	291棟	岩手県8、埼玉県5、東京都2、神奈川県111、岐阜県6、静岡県14、愛知県1、香川県10、大分県130、宮崎県3、鹿児島県1

動きの遅い台風10号や太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気の影響が続いたため、西日本から東日本の太平洋側を中心に記録的な大雨となり、複数の観測地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新し、8月27日からの総雨量は、東海地方や九州南部で900ミリを超えるなど平年の8月の月降水量の2倍以上となった所があった。

ダムは、141ダム(多目的ダム70、利水ダム71)で事前放流を実施し、98ダムで洪水調節を実施。

宮崎県管理の1ダムと大分県管理の1ダムが緊急放流に移行した。

また、中部地方整備局管理の蓮^{はちす}ダム(櫛田川水系 蓮^{くした}川)が特別防災操作(通常の洪水調節よりも大幅に流量を抑制する操作)を実施した。

浸水被害

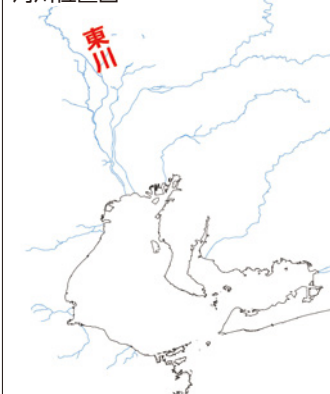
国が管理する櫛田川水系佐奈川で氾濫による農地浸水を確認。

11都県(岩手、埼玉、東京、神奈川県、岐阜、静岡、愛知、三重、大分、宮崎、鹿児島)の30水系42河川で氾濫による浸水被害を確認。

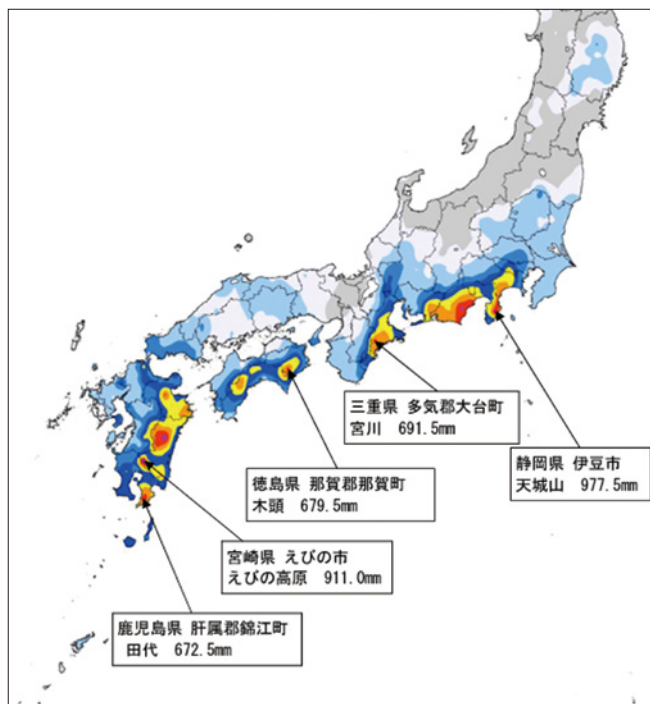
このほか、岐阜県管理の木曾川水系小畑川(養老町)、三重県管理の三渡川水系堀坂川(松阪市)で堤防欠損を確認。

国管理河川、都県管理河川あわせて43河川で、全国的に2,906棟(R6.11.21)の床上・床下浸水被害が発生した。

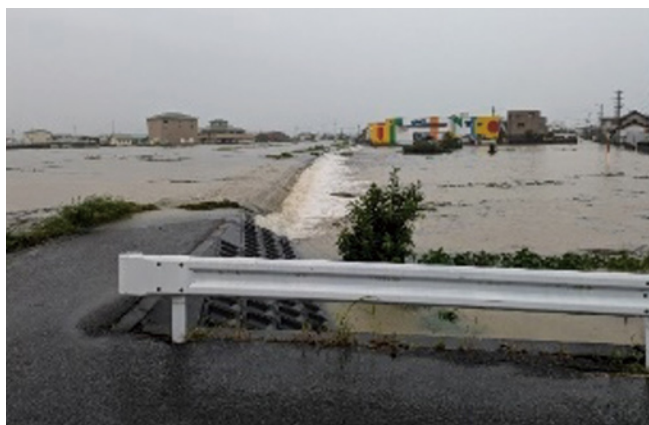
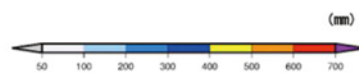
河川位置図



■主な地点の降水量(8月27日～9月1日)



※降水量の期間合計値の多い主な5地点



木曾川水系東川(岐阜県池田町)



高草川(静岡県焼津市)



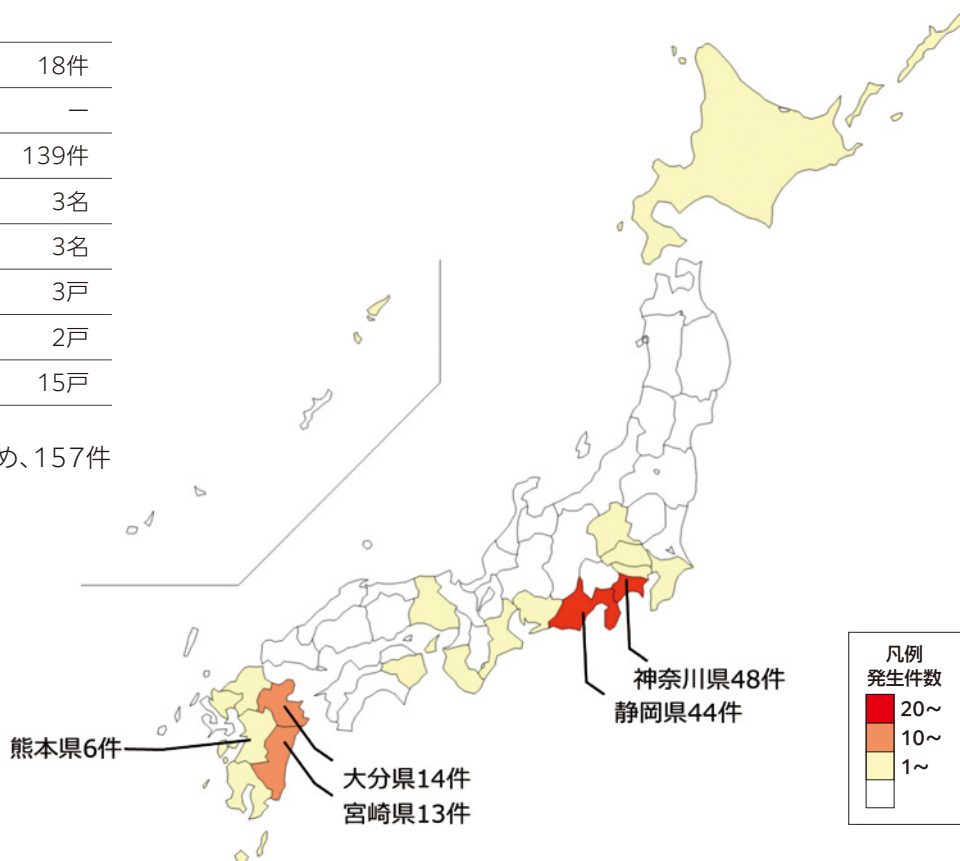
土砂災害

令和6年台風第10号

●土砂災害(国土交通省情報)

発生件数	土石流等	18件	
	地すべり	—	
	がけ崩れ	139件	
被害状況	人的被害	死者	3名
		負傷者	3名
	家屋被害	全壊	3戸
		半壊	2戸
		一部損壊	15戸

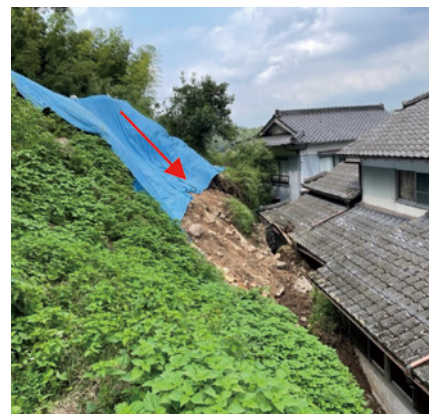
この大雨の影響で、神奈川県をはじめ、157件の土砂災害が発生した。



8/30 がけ崩れ 神奈川県小田原市城山



8/30 がけ崩れ 神奈川県厚木市小野



8/30 がけ崩れ 大分県杵築市山香町



8/29 土石流等 静岡県静岡市葵区慈悲尾



8/30 がけ崩れ 静岡県熱海市熱海



8/29 がけ崩れ 宮崎県東臼杵郡椎葉村不土野

資料:国土交通省HP



浸水被害

令和6年9月20日からの大雨

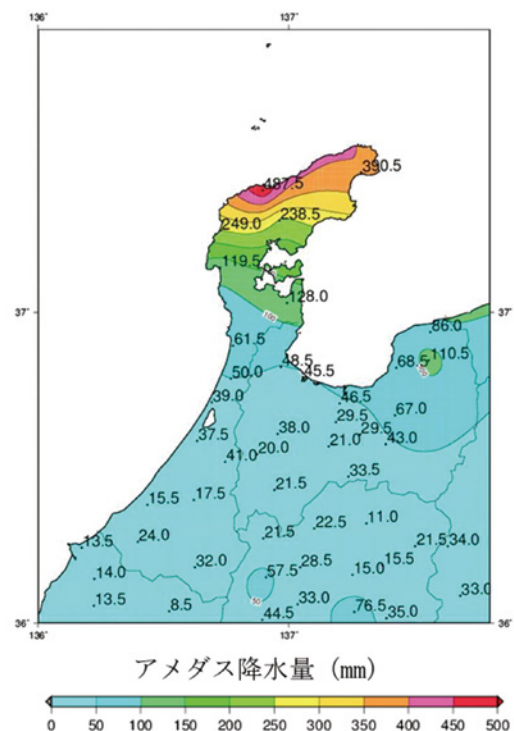
9月20日頃から前線が日本海から東北地方付近に停滞し、22日には台風第14号から変わった低気圧が日本海から三陸沖へ進んだ。低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で大気の状態が非常に不安定となり、東北地方から西日本にかけての広い範囲で雷を伴った大雨となった。

特に、秋田県では20日明け方、石川県では21日午前中に線状降水帯が発生した。石川県の多いところでは20日から22日までの総降水量が500ミリを超え、9月1か月間の平年の降水量の2倍を上回るなど、北陸地方や東北地方の日本海側では記録的な大雨となった。

●被害状況(消防庁情報第35報R7.1.28)

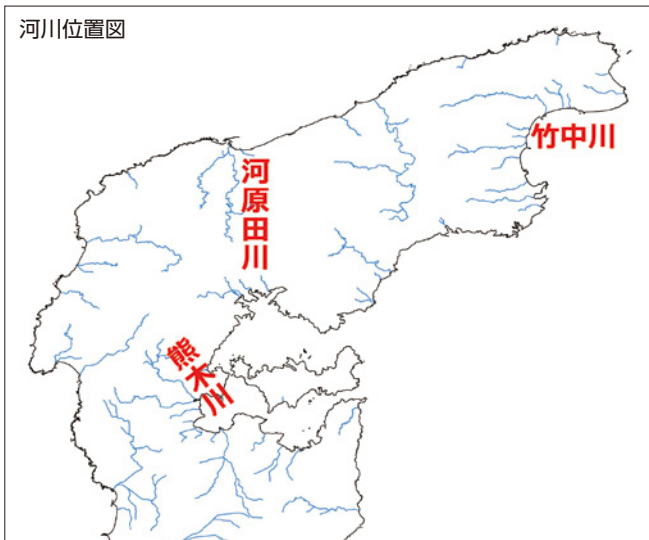
人的被害	死者	17人	石川県16、熊本県1
	行方不明者	0人	—
	重傷者	2人	石川県2
住家被害	全壊	82棟	石川県82
	半壊	597棟	石川県597
	床上浸水	67棟	石川県52、長崎県12、熊本県3

■アメダス積算降水量(9月21日00時～23日24時)



浸水被害

河川位置図



国管理河川では、最上川水系最上川(山形県戸沢村)で、本川からの逆流を防止するゲート設備の不具合により、農地浸水が発生。

県管理河川では、石川県管理の21水系28河川において、氾濫による浸水被害を確認。このうち町野川水系町野川で2箇所の堤防決壊を確認。

国管理河川、県管理河川あわせて29河川で、日本海側

を中心に1043棟(R7.1.28時点)の床上・床下浸水被害が発生した。

ダムは、事前放流の基準に到達したダムは15ダムあり、そのうち1ダムが事前放流を実施。既に水位が低下していたダムが14ダム(多目的ダム7、利水ダム7)。40ダムで洪水調節を実施。



かわらだがわ わじまし
河原田川(石川県輪島市)



くまきがわ ななおし
熊木川(石川県七尾市)



たけながわ すずし
竹中川(石川県珠洲市)



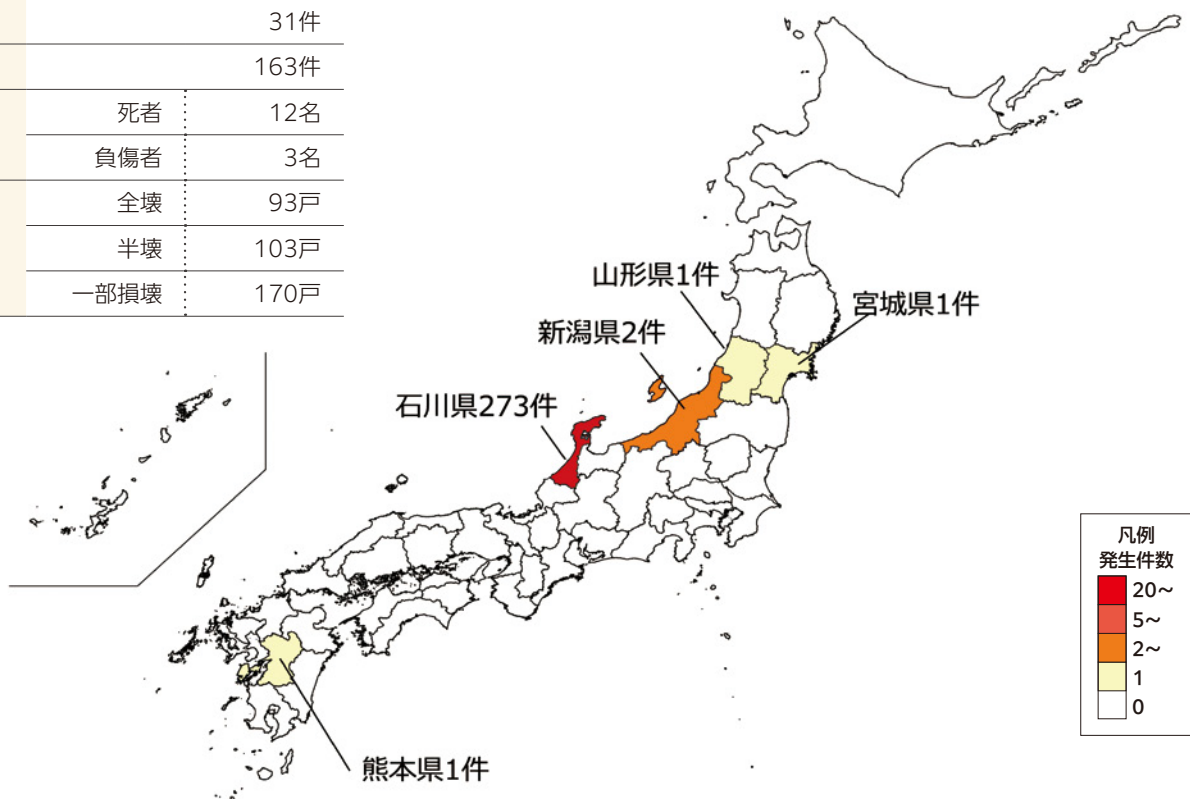
土砂災害

令和6年9月20日からの大雨

●土砂災害(国土交通省情報)

この大雨の影響で、石川県をはじめ、278件の土砂災害が発生した。

発生件数	土石流等	84件	
	地すべり	31件	
	がけ崩れ	163件	
被害状況	人的被害	死者	12名
		負傷者	3名
	家屋被害	全壊	93戸
		半壊	103戸
		一部損壊	170戸



9/21 土石流 石川県珠洲市大谷町



9/21 がけ崩れ 石川県珠洲市若山町広葉



9/21 土石流等 石川県輪島市町野町南時国



9/21 地すべり 石川県輪島市町野町川西



9/21 土石流等 石川県輪島市久手川町



9/21 土石流等 石川県輪島市山本町

資料:国土交通省HP

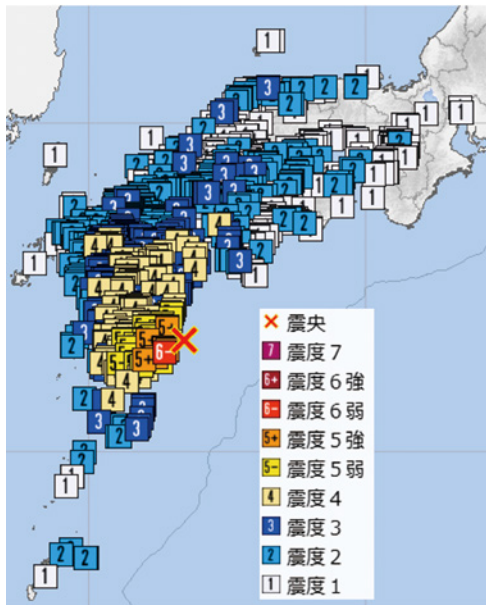


地震被害

宮崎県日向灘を震源とする地震による被害

令和6年8月8日16時43分に日向灘を震源とする地震(マグニチュード7.1)の地震が発生した。
この地震により、宮崎県日南市では最大震度6弱、宮崎県宮崎市、串間市、都城市、鹿児島県大崎町などでは震度5強を観測した。

●被害状況(消防庁情報第13報R6.11.21)



地震による道路への落石発生

資料:消防庁HP
国土交通省HP
気象庁HP

都道府県	人的被害(人)				住家被害(棟)			
	死者	行方不明者	負傷者 重傷 軽傷	合計	全壊	半壊	一部損壊	合計
熊本県			1 1	2				
宮崎県			2 8	10		1	74	75
鹿児島県				4	1		7	8
計			3 13	16	1	1	81	83



火山被害

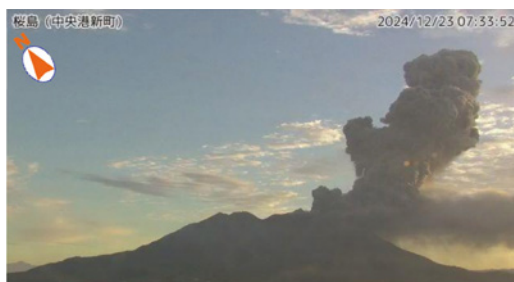
桜島の火山活動

桜島の南岳山頂火口では噴火活動が継続しており、年間で噴火が99回発生し、このうち爆発は46回であった。
大きな噴石は最大で4合目(南岳山頂火口より約1,500m)まで飛散し、噴煙は最高で火口縁上5,000mまで上がった。
また、同火口における火映は、夜間にほぼ連日観測された。

昭和火口では、1月にごく小規模な噴火が発生したが、その後噴火は発生していない。



桜島 南岳山頂火口、昭和火口周辺及び南側山腹付近の状況
(有村町(有村溶岩展望所)から観測)



桜島 12月23日に発生した南岳山頂火口の爆発の状況
(中央港新町監視カメラ)



桜島 警戒が必要な範囲

資料:気象庁HP

みなさんに伝えたい、知ってほしい 防災情報

日頃から知ってほしい防災情報と災害時に見てほしい防災情報

国土交通省防災ポータル



日頃から…

●被害想定 ●身の守り方 ●国土交通省等の取組

災害時に…

●被害状況 ●気象情報 ●都道府県の情報 ●交通・物流情報
●被害者支援情報 ●安否情報 ●ライフライン情報 ●地域の情報

いつでも…

●天気予報 ●気象警報・注意報 ●地震情報

身のまわりの危険性を知る（洪水、土砂災害、高潮、津波）

ハザードマップポータルサイト

洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示します。



災害の危険が迫っているのを知る（洪水、土砂災害、浸水）



キキクル（危険度分布）

洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示します。

災害の危険が迫っているのを教えてくれる（大雨・洪水警報）

危険度分布通知サービス（プッシュ型）

登録した地域の危険度が高まったときメールやアプリでお知らせします。



離れた家族などに危険が迫り避難が必要な時に



逃げなきゃコール

「逃げなきゃコール」は、離れた場所に暮らす高齢者等の家族の防災情報を、家族がスマートフォンアプリ等によりプッシュ型で入手し、直接家族に電話をかけて避難を呼びかける取組です。

利用者に最適な防災情報を国内最速レベルで配信

特務機関NERV防災

次の重大な通知が届きます。

- 緊急地震速報（警報） ●津波警報・大津波警報 ●気象特別警報 ●噴火速報
- 噴火警報（居住地域：避難・避難準備・居住地域厳重警戒）
- 国民保護に関する情報（Jアラート）

